

(令和6年3月5日 午前10時10分 開始)

○議員（小嶋 貴子君） 公明党の小嶋貴子です。通告書に基づき質問をさせていただきます。

オリンピック・パラリンピックが本年パリで開催されます。これらは多様性を認め誰もが個性や能力を発揮し、活躍できる社会のヒントを与えてくれるものだと思います。これからの時代は、多様性がキーワードになる時代です。

昨年、L G B T理解増進法が成立しました。性的少数者への理解を進め、差別をなくしていこうという法律です。

性的少数者は、左利きの人の割合、また障害者手帳を持っている人の割合と大体同じだと言われています。私たちの周りにも左利きの人、障害者手帳を持っている人はいらっしゃいますよね。実感として関係がないと思っている人も多いようですが、私たちの周りには、確実にL G B Tの少数派の人たちがいるのです。

教育長に質問します。町内の児童生徒に性的少数者だと思われる子供はいますか。また、そのような児童生徒にどのような対応をされていますか。

あとは、質問席にて伺います。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

そのような該当する児童生徒があるかということですが、現状ではそういった実態というのは把握しておりません。ないというふうに認識しております。

以上でございます。

○議員（小嶋 貴子君） では、そのような児童生徒が出てきた場合にはどのような対応をされるか、考えていらっしゃいますか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

実際にいた場合にどのような対応を取るかということですが、実際、教職員の皆様は、研修の中でこういう多様性についてということは一通り研修を受けられているところであります。現場でそのような児童生徒がおりました場合には、現場の先生と相談をしながら、教育委員会も一体となって対応を協議し、対応していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（小嶋 貴子君） 日南市は、基本、全ての中学校の制服を同じにし、男女の区別ない制服の導入をしています。当然のことですが、女子も普通にスカートではなく長ズボンを着ることができます。川南町の中学校においても、女子もズボンを着る自由を認めていますか。また、今後、性的少数者への配慮も考え、制服を変更する準備がありますか、お伺いします。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

制服に自由度をということですが、制服といいますと両中学校、国光原中学校、唐瀬原中学校には制服がございますが、いずれにおいてもスカートとズボンの選択ができるようになっているというふうに聞き取りをしておるところです。唐瀬原中学校においては、実際にズボンをはいてということで学業されている生徒さんもいらっしゃるところであります。

今後、制服のことにについてということでございますが、制服に関しましては、各学校で決定するものになっております。今後、そのような動きもあるんじゃないかと思いますが、教育委員会で制服を変えなさいということは申せる立場でございませんので、今後、学校のほうの動きというのを見ていきたいと思っております。

以上でございます。

○議員（小嶋 貴子君） 児湯郡内の中学校で同一の制服をつくれば、需要の多さから単価が下がり経済的で、お下がりや郡内での転校時にも制服を変えなくてもよいと思うのです。もちろんそれぞれの学校の特徴を生かす、例えば校章を入れるなど工夫をしていけばいいと思います。

私は昭和の薫りの漂う制服ではなく、昭和の薫り自体、それ自体は私も好きなのでいい雰囲気ですし、いけないということではないんですが、中学校の制服に関しては、21世紀の新しいセンスのいい、郡内で統一された中学校の制服をつくったほうがいいと考えています。教育委員会が先導して、各中学校また郡内に話し合いを持っていただけるようお願いしたいと思います。

私は、先日、町内の中学校2校を2つとも訪問させていただきました。正直どちらも古い中学校です。唐瀬原中学校は雨の日に行きました。一部は洋式トイレに改修されていましたが、トイレは臭く暗かったです。廊下は雨の日になると、コンクリートなのでびしょびしょになり、私自身転びそうになりました。生徒や教師も滑って転倒することもあると言います。

また、多様性の観点からいくと、全くバリアフリーではありません。車椅子の生徒や障害のある生徒は、階段だらけの校舎でどのように生活していくのでしょうか。

教育長にお尋ねします。中学校に行かれたことはありますか。教育長は東京の学校で教鞭を執られ、海外の日本人学校にも勤務されています。学校環境の改善についてどのような考えをお持ちでしょうか、聞かせてください。

○教育長（長曾我部 敬一君） 中学校については、2校とも五、六回以上は行っております。小学校についても、いろいろと各校長先生、教頭先生等々と話し合っております。そういうことで、教育委員会とそれから学校ということで連携を取りながら、いろんな諸問題を今共有しながら、解決に向けて進んでいるところでございます。

私もまだ着任しまして3か月ということで、徐々に周りが見えてくるようになりましたんで、またそれ以上に分からない点等々がありましたら、その学校のそういう諸問題等々を勘案しながら、よりよい方向へと改善していく途中でございます。

以上です。

○議員（小嶋 貴子君） これからの子供たちのことを考えて、ぜひよろしく願いいたしたいと思います。

次に、文化ホール・図書館複合施設の指定管理問題について質問をします。

川南町が宮日新聞に連日掲載され、私のもとに多くの疑問、質問が寄せられています。川南町はどうなっちゃると、川南は大丈夫ね、川南の図書館は新刊がとても充実して好きなんだとか、子供が図書館が好きで、4月から絵本とか借りられるんですかなど、特に女性の不安の声が寄せられています。

川南町は現在まで10年間、文化ホール、図書館業務を株式会社図書流通センター（通称）TRCに委託してきました。TRCは円滑に大きな問題もなく、指定管理業務を行い実績を積んでき

ました。3月に契約期間が切れるため、今回プロポーザル方式で入札が行われました。しかし、この図書流通センターは書類不備で失格となっています。

私はこの一連の経緯に疑問を持ち、2月の臨時議会において反対討論しました。しかし、十分な説明や話し合いが行われず、採決が行われました。結果は、4月からの指定管理業務は、川南フロンティアが行うことになりました。このことは、新聞報道でも町民の皆さんに知らされています。新聞を読んだ町民の皆さんは、真相を知りたい、町は説明責任を果たしていないと言っています。2月はタウンミーティングも開かれていません。

社会や不正や道理に合わないと感じることに關しては、徹底的に抗議します。もう決まったことだ、またぶり返してなどと言ってははいけません。町の未来のためにもここでしっかりと立ち止まり、真相を明らかにしてほしいと思います。政治は信頼で成り立っているからです。人々の信頼を失った政治は崩壊すると思います。私は町民の代表者です。私の後ろには多くの町民、特に女性の声があることを心に留め、私の質問に真摯に答えてください。

今回、指定管理者の選定に關して、疑問に思っていることが4つ、確認したいことが1つあります。

初めに、ここ10年間で2回指定管理選定が行われました。過去2回は、10月に指定管理業者の公募が行われています。今回は2か月も遅れて12月に行われました。TRCの現図書館長は、9月、10月、11月と定例会ごとに公募はまだですかと問合せをされています。9月の時点では、10月には公募ができるように動いていると返事をされたと聞いています。ところが、10月の定例会では、まだだと言われたと言います。結局、今回2か月も遅れて12月に行われました。なぜ公募を遅らせたのですか。

ちなみに川南フロンティアネットワークの設立はいつですか。教育長もしくは副町長にお願いします。

○教育課長（三好 益夫君） ただいま御質問のあった遅れた理由ということですが、先般の臨時議会のときに申し上げましたように、一つの理由としては、指定管理者の募集要項の見直しを行っていたということが理由にあります。特に物価の高騰の影響を受けまして、光熱水費それから燃料費のほうが高騰して、なかなか指定管理者が受けるには厳しいということで、こちらを除外したという作業があります。それから、年度ごとの指定管理料を年度ごとに精算をして、実績に応じてということで金額を決めるというような内容の見直しを行っているところです。この部分で少し時間を要したというのがあります。

（ 最終日の冒頭、教育課長より質問に対する報告あり ）

以上でございます。

○副町長（河野 秀二君） 先般の臨時議会で全員協議会もしくは本会議で、私は全てのことを言ったつもりです。それ以上も以下もありませんので、そういうふうに御理解していただきたいと思います。

それから、何か裏があるといって私がおかしく取っているのか知りませんが、そういったことは一切ありませんので、御報告いたします。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） 2月の臨時議会で答弁をされました。そのとき私は知らなかったんで

すが、9月の定例会では、10月に公募をする予定だと館長には伝えているようです。ところが、どうして10月になったら待てということになったのか。

それから、もう一つ、フロンティアネットワークの設立はいつですかということに関しては、御返事を頂いていません。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

定例会というのが、教育課の担当職員と図書館流通センターの館長及びチーフと、ということ
で毎月打合せをさせていただいているところです。当初から9月ぐらいから指定管理者の公募が
行われるというお話は御存じでありましたので、予定としてはということで、最初はおおむね9
月、10月ぐらいでとお答えしていたところなんですけど、実際作業がちょっとずれ込んでしまっ
たというのはずれ込んでしまったということになっております。

それから、川南フロンティアネットワークの設立でございますけど、こちらのほうが申請の書
類からいきますと、正式にグループの成立というのが、令和5年12月1日が正式な設立というこ
とで書類のほうには記載されておるところです。

以上でございます。

○議員（小嶋 貴子君） 先ほど言われた、見直しや物価高騰などが原因で公募を遅らせという
ことですが、この見直しのこともちょっと気になりますし、設立12月1日というのは、この会社
の設立まで公募を遅らせていたのではないかと。そういう勘ぐりをどうしてもしてしまいます。

また、先ほど見直しということでしたが、何の不具合もなかったのに、指定管理期間を5年か
ら3年に変えたのはなぜですか。

○副町長（河野 秀二君） 臨時議会でも申しましたように、社会的な変化が激しい中で、長期
間の契約は私は好ましくないと。柔軟に対応するために、5年を3年にいたしましたという説明
をしたかと思いますが、理由はその理由です。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） これも勘ぐりなんですけど、3年から5年に変えた。12月1日に設立
されて、それまで延ばした。そして、多くの会社が公募に参加できるようにということで変えら
れたと前回聞いていますが、結局3年というのは、東町長が病気になって入院されて、早い全快
とお帰りを願ってはいますが、この3年という期間は、まだ東町長の在任中に当たります。5年
にすると東町長は次の機会、町長されているか、されていないか、その保障はないので、それに
合わせて3年にしたのではないかなと、私はそんなふうに勘ぐってしまいます。

公募を遅らせたことで、町民自体が不利益を被っていると思います。まず、2か月も遅らせて
しまえば、後のスケジュールが窮屈になるという点です。4月から指定管理を行う業者は準備が
大変になります。また、この遅れで4月までの準備ができないという理由で、公募に応じる業者
は少なくなるのではないのでしょうか。実際に問合せをしてきたほかの2つの会社は申込みをし
ませんでした。一般的に考えて、普通の会社は12月申込み、1月プロポーザルでは、4月開館に間
に合いそうにない。そういうことで申込みをしなかったのではないのでしょうか。

今回、図書流通センターと川南フロンティアネットワークの2つの業者しか応募していません。
本来ならばもっと多くの業者に参加してもらい、審査会を開くべきだったと思います。それが町
民の利益につながったはずですが、しかし、そうしなかった。川南フロンティアの設立は12月1日。

この設立まで応募を延ばしていたとしか考えられません。

次の疑問です。本年1月17日に応募のあった2つの業者の審査がプロポーザル方式で行われました。審査員は7名。副町長が審査委員長で、審査結果はT R Cが536点で川南フロンティアが532点でした。T R Cが4点差で勝っています。この審査会は、役場別館の会議室で行われ、教育課の職員が同席し、事務処理を行い、結果は審査員全員に告知されています。この時点でT R Cが4月からの指定管理者として認定されたのです。

そこで4月からの指定管理候補はT R Cだとホームページ上に掲載しました。しかし、日を置かず削除されたのです。なぜ一旦計上したものを削除したのでしょうか。ホームページに掲載した決定事項を削除するよう指示した人は誰ですか。副町長、お願いします。

○副町長（河野 秀二君） 何度も申し上げますけど、臨時議会でそのことも私全て話しております。それ以上も以下もありませんので、御理解ください。私が指示しました。

○議員（小嶋 貴子君） プロポーザル当日に職員がT R Cが勝ったのでホームページに上げますと言ったときに、副町長はなぜそのときに上げたらいかん、そういうふうに言われなかったんでしょうか。もし不具合があるなら、そのときに言うべきではなかったですか。ホームページに上げて、それこそ1週間も2週間もしてから下ろしたわけじゃない。本当短日で下ろしています。その理由を聞かせてください。

○副町長（河野 秀二君） なぜそのときに言わなかったかということなんですけれど、正直言って答弁のしようがありません。そのときに多分頭の中になかったんだろうと思います。その後気がついてから、担当に連絡いたしました。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） その後に気づいたというのは、たしか全員協議会のときだったか、1月14日に書類不備に気がついて、付箋を貼っていた。審査の日にうっかりして、審査が終わった後気がついた。その審査が終わったときもすぐには気づかなかったわけですね。その後、ホームページに上がってから、しちやいけなかったんだ、審査しちやいけなかったんだ、失格だったんだと思い出されたということですね、副町長。

○副町長（河野 秀二君） その日々日々の自分の頭の中の考えを今ここで全てを覚えておりませんけれど、要するに書類不備で失格ということを決断しまして、関係者と相談しまして、そのような対応を取りました。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） この問題は、ああ、うっかりしていました、忘れていましたで済む問題ではないと思います。T R C側にはそこで自分たちが決まると、そう思ったはずです。それをその場で、忘れていた、失格、失格。そんな話は非常にT R Cに対して失礼だと思います。副町長はどう思われますか。

○副町長（河野 秀二君） 質問の意図が、私ちょっとよく分からないですけど、私は一連の流れで作業をしたつもりなんですけどね。ちょっと意図が分かりませんので、お答えができません。申し訳ありません。

○議員（小嶋 貴子君） 副町長は私と同じく、あまり物覚えも頭の回転もよくないようなので、次の質問に移ります。

同じく1月17日の審査の採点について質問します。

7名の審査員のうち、4名はTRCに高い点数を入れています。7名の審査員のうち3名が川南フロンティアに高く点数を入れ評価しています。そのうち1名が1点差ですが、1名は21点、もう1名は25点の差をつけて、川南フロンティアを推しているのです。

TRCは全国550の図書館で指定管理を行い、川南町では10年の実績を重ねてきた会社です。川南フロンティアは昨年の12月に設立されたばかりの会社で、また実績も何もない未知数の会社です。

文化ホール、図書館の運営の責任は教育委員会にあり、その最高責任者は教育長です。教育長は12月に就任されてから、図書館に何回足を運ばれましたか。どのような印象を持たれたのでしょうか。この最高点をつけた2名の審査員は、副町長と教育長だと聞いています。

ここで、教育長と副町長に質問します。川南フロンティアにTRCよりも20点以上もの差をつけて評価した具体的な要因は何ですか。ここはとても大切な点です。真摯に答えてください。

○副町長（河野 秀二君） 申請された計画書の中を見て私は判断いたしました。両方を比べていただければ、私は一目瞭然と思いましたので、そのような点数を入れました。

ちょっと気になるのは、個人的な各審査員の点数が表に出ているのかなというのが、私おかしいちゃうか、変でたまらないんですけど。それはそれとして、私は計画書の中を見て判断いたしました。事業課にも長くいましたので、そういうポイントについては、私なりの判断をいたしました。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） ここに傍聴席で聞いていらっしゃる方もいらっしゃいます。具体的に、この点、この点という形で教えていただきたいと思います。

○副町長（河野 秀二君） 私、真意が分かりませんのでお答えできません。そのときにその申請された図書を見て判断いたしました。全て頭の中に入っているわけではありませんので、大変申し訳ありませんけど、お答えできません。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） これは非常に、こういう言い方するとまた問題になるかな、非常に無責任な物言いだと思います。今言ったように、その議会を聞いていない人、また、議会全員協議会を聞いていない方たちが傍聴席にはいらっしゃいます。ぜひ、こことここがよかった、20点もの差をつけたんですから、ぼんやりとしてでも、ここはよかったな、こっちはこっちのほうがよかったな、そういう点はあるはずです。それを具体的に教えてください。

○教育長（長曾我部 敬一君） 先ほどの質問、答弁の中で、お二人が21点、25点の差、それはどこからそういう、それを私見せていただきたいんです。それから先ほどの説明で、たくさんの設問の中で答えたというのが、記憶にほとんど残っていないので、それを手元に、私のつけたそれを提示していただければお答えいたします。

以上です。

○議員（小嶋 貴子君） この点数に関しては、情報開示で点数と席順の表を頂きました。そのときに誰がどれというのは分かりませんが、大体順番でこうかな、こうかなとそういうふうに考えて、そして2月臨時議会のときに、それらしき話をしたときに否定されませんでした。そ

れは違う、違う、自分がつけたっちゃねというふうに否定はされなかったので、それで多分こうだろうということでは言わせていただきました。

そして、先ほど言われた、はっきりしないということですが、私がうろ覚えで覚えていること、大体3つあります。まず、地域に落とす。川南フロンティアは地域にお金を落とすということと言われています。例えばフィルムコートを川南町内の福祉施設でもらうとか、本を地元の書店から買うとか、雑誌の情報は国立図書館から無料でダウンロードする。そういう話を聞いたと思うんですが、これは間違いないでしょうか。覚えていらっしゃるでしょうか、副町長。

○副町長（河野 秀二君） 本を地元で買うというのは、何となく頭に残っております。ただ、あの分が厚い資料を全て見て、どこがどうだったというのは、私の頭ではちょっと今ここで答えする能力はありませんので、大変申し訳ありませんけど、そういうことです。

○教育長（長曾我部 敬一君） 私の記憶では、TRCに入れたような気がするんです。よく覚えておりません。それを先ほども申しましたけど、もしもその採点票がありましたら、今提示していただければ、全てお答えすることはできると思います。今お持ちですか、採点票。小嶋議員、その採点票を見せていただけますでしょうか。その採点票がどのようにしてそれがお分かりだったんですか。先ほど、想像だ、席順からとおっしゃったんですけれども、その席順というのと採点票というのがお分かりなんですか。それをちょっと提示していただければありがたいです。よろしくをお願いします。

以上です。

○議員（小嶋 貴子君） 情報開示で頂いたもので、後でお見せします。ただ、この席順をずっと見てると書いてあるんですね、教育長とか、委員長とか。その番号に合わせて点数を、これはこれだなというふうにししました。後でお見せします。前の議会のときに同僚議員が点数のことを話をしたときに、いや、いや、私は入れていませんよみたいな話を副町長も教育長もされなかったもので、私は勝手にそうなんだと、そう思っているところです。

そして、さっき副町長が地域で本を買う、それは覚えていると言われましたが、川南町に書店があったですかね、地元の書店。たしか農協の明屋書店は大分の書店と聞いています。川南町内にその本を売り買いするようなそういうことのできる書店がありますか。

○副町長（河野 秀二君） 買われるか、私分かりません。その会社の資料の中にそういう記載があったのをうろ覚えで覚えています。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） 地元にお金を下ろすということに感銘したという同僚の議員さんもうらっしゃいました。結局、どこで売るか買うか知らん、どげんするか知らん。それで高い点数をつけたというのは、非常に納得ができないと私は思います。答えられます、副町長。答えられない。もうやめます。地域にお金を落とすということで、先ほど言われたけど、地元の書店で本を買う。フィルムコートなどを地元の福祉施設でもらってお金を落とす。そういう話を私は聞きました。それは覚えていらっしゃるでしょうか。

○副町長（河野 秀二君） 私が本を注文するわけではありません。請負をされた指定管理者の方が町内の方を通して購入されるということじゃないんですか。私はそう理解していますけど。できないと町内に金を落とすということにならないじゃないですか。それはあくまでも憶測ですけど、

そういうふうを書いてあったのをうろ覚えで覚えています。

ただ、あまりにも質問の内容が、ちょっと言葉がどうかなというところを私思っています。想像だけで物事を言われると、私も非常に、まあいいですわ、これでやめます。それでよろしいですかね。先ほどの町内で買われるのは、町内で買われるということが書いてあったような気がしますので、それを信じるしかありません。

以上で終わります。

○議員（小嶋 貴子君） 私も回転の頭が悪く、物忘れも激しく、物言いもちやんとできないんですけど、副町長たる者、少なくとも私よりはしっかりとした頭を持っていいただければなと思います。

次の質問に移ります。

町は1月17日、審査で勝利したTRCを積算書書類不備として失格にしました。書類がないと気づいたのは、先ほど1月14日と言われています。そもそも積算根拠は、実績のある会社でなければ具体的に出せないものではないでしょうか。新規参入の川南フロンティアネットワークが、具体的に積算書を出せたのはなぜでしょうか。9月からTRCに対して、担当課から一覧を出してほしい、仕様書を出してほしいとの依頼があったことです。もしかしてですが、もしかして、このTRCの書類をフロンティアネットワークが利用していたとしたら問題なのではないでしょうか。それこそ、あんたの想像だ。確かにこれは私の考え、勘ぐりです。だけど、いろんな事実を重ねていくと、ついついそう勘ぐりたくなる事実がたくさん出てきます。

副町長名義の公文書には、審査員全員の同意の下、書類不備でTRCを失格とすると書かれています。この文書は1月31日付で出され、TRC側に通告されています。しかし、この時点で審査員が全員同意したわけではありませんでした。TRCを失格とする同意は、審査委員長である副町長が個別に審査員を回って確認を取って回られたんですよ。

しかし、この文書は、2月1日付で教育委員会からTRCに渡されています。教育委員会の責任者は教育長です。副町長が教育長に同意を求めに来られたのは何月何日ですか。また、同意が結ばれた場所はどこですか。TRCを失格にした理由も言われたのでしょうか。そのやり取りについて教えてください。教育長、お願いします。

○教育長（長曾我部 敬一君） 今の質問に答えさせていただきます。

私頭の中、そのことについては全然残っておりません。申し訳ありません。もしかしたら調べて、いろんな記録の中から思い出したことだとお答えすることができんですけども、質問については全然記憶に残っておりません。申し訳ございません。

○議員（小嶋 貴子君） では、帰られてその書類をしっかりと確認してみてください。教育長は、副町長の話に違和感もなく素直に同意されとは思えません。指定管理問題の真相、教育長は副審査委員長です。TRCの失格に関わったと思われても仕方がないので、しっかりと確認してみてください。私は正直な気持ち、教育長にこの一連のことは、これはおかしいですよ、人の道に反するものです、町のためになりませんとって反対してほしかったです。

1月17日の審査会で一旦はTRCが4月からの指定管理者候補と決定されておきながら、実際には書類はついてたのに、後づけで書類不備という理由で失格とされることはあり得ないことだと思います。

そもそも教育委員会は、行政から独立しています。政治的な中立性を守るためです。行政の言いなりになっては、子供たちや町の将来にとってよくないこともあるからです。法令にも地方自治法第180条の5に基づき、教育委員会とは地域の学校教育、社会教育、文化・スポーツ等に関する事務を担当する機関として全ての都道府県及び市町村等に設置されており、首長——知事とか町長ですね——から独立した地位、権限を有する行政委員会であるとあります。教育長にはしっかりと自覚をし、善悪をはっきりと言っていたきたいと思います。

次の疑問を言います。審査員7名のうち、まだ2名は同意していないまま、1月31日付で出されたTRCを失格にするという公文書は、偽造に当たらないかという疑問です。書類不備というなら、もう一度審査会を開き、委員会全員で話し合うべきです。これは川南町の自体を信用のないものに作る重大な問題だと思います。副町長の間違いで済まされる問題ではありません。3年間で約2億以上のお金が使われる指定管理業務です。副町長らが独断で業者を決めていいはずがありません。TRCも不正が行われていたのではないかと考えています。

また、先日開かれた議会報告会では、会の終了後、意見、感想が寄せられました。その中にこうあります。虚偽公文書作成に対する町議の皆さんの認識の低さにがっかりです。公文書の信頼性は非常に高く、裁判での証拠能力も高いはずですが、私文書偽造よりも量刑が重いのだと思います。このままでは川南町発出の公文書の信頼性が地に落ちてしまいます。また、ほかにも、一般職員が今回副町長がされたことと同じことをしてしまった場合は、懲戒処分になるのではないですかという意見が入っていました。

4月から文化ホール、図書館の指定管理は川南フロンティアが行うことになっています。この川南フロンティアについてお伺いします。

この会社は、事務所はどこにあるのでしょうか。また、4月から開館ができ運営できるのですか。職員スタッフは確保されていますか。副町長、お願いします。

○副町長（河野 秀二君） 作業が今どのくらい進んでいるのか、私は把握しておりません。申し訳ありません。教育委員会のほうで把握しておれば、御報告を願います。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、川南フロンティアネットワークがどこにあるかということなんですけど、代表団体となっております一般社団法人みやざき公共・協働研究所、こちらのほうの事務所が宮崎市内のほうにございます。こちらのほうには、議決を受けた後、私と担当の（島岡）補佐で事務所のほうはお伺いして、理事の皆さん、それからフロンティアネットワークのメンバーの方々と面談をしています。

現在、どこまで引継ぎの作業が進んでいるかということなんですけど、去る2月16日に現指定管理者である図書館流通センターの館長、それから、そのとき来られていたのが営業の方と副支社長さんまでいらっしゃって、あとフロンティアネットワークの方3名とでということで引継ぎを行いました。こちらのほうがまず第1回目でありましたので、教育委員会にあります2階の会議室のほうで顔合わせということで引継ぎ会のほうを行ったところであります。

ただ、引継ぎに関しましては、当事者同士で行うものでありますので、具体的にどこまで進んだかというのは、私どもではちょっと把握できかねているところです。ただ、人員に関しても、去る2月20日に残留を希望される方向けに説明会を開く等々の引継ぎのほうは行われていたとこ

です。それ以外にもいろんな事務用品のリース品、それからシステム自体は教育委員会のほうで契約して図書のシステムがあるんですけど、そちらのほうも継続して使われるとあって、そういったことに関しては打合せが行われていたところですよ。

現状がどうなっているかというのは、ちょっとまだ聞き取りもしておりませんので、分からないところではあるんですけど、4月に町の施設である図書館、文化ホールが開館されて円滑にできるようにということで、教育委員会のほうもしっかり監督をしていきたいというふうに考えております。

(最終日の冒頭、教育課長より質問に対する報告あり)

以上でございます。

○議員(小嶋 貴子君) 4月からきちんと開館できるように指導をお願いします。

2月20日に川南フロンティアの職員採用のために説明会が行われたそうです。そのときに現在の図書館の職員3名が参加し、2月25日に採用のための面接には1人も参加しなかったということを知っていますので、ぜひ職員もしっかりと採用し、4月からは開館できるように指導をお願いしたいと思います。

また、これから川南フロンティアが町民にサービスを提供するに当たり、コンピューターを新しく購入したり、システムを入れ替えたり、多額のお金が必要となりますが、プロポーザルで提示された金額以上の法外の資金を要求されることはありませんか、御質問します。

○教育課長(三好 益夫君) ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、システムの入替えの件なんですけど、現状、引継ぎ会ときはそのまま利用するような引継ぎでありました。だから、当面、直ちに新システムを入れて、その費用が発生するということはないような引継ぎであったように記憶しております。

それから指定管理料なんですけど、こちらのほうは債務負担行為ということで、年度ごとということで上限が定められておりますので、指定管理者が今までやっている、今後協定を結ぶということになっていくんですけど、その中でも定められた以上のものを求めることはできないようなルールになっております。

どうしても社会情勢と、例えば人件費が非常に高騰してなかなかやっていけないとか、そういった社会情勢による変化があった場合は、相談をしていただいた上で、もちろん議会の皆様をお願いをして議決いただかないと先に進まない世界でありますので、勝手に上限を外して予算を使っていくことはございません。

以上でございます。

○議員(小嶋 貴子君) 今回、宮日新聞に載ったことで、県内に川南の状況が知らされました。複数の方々からいろんな声を頂きました。これは不正ではなく手違いだといった議員がいますが、調べれば調べるほど疑惑が湧きます。

この一連の指定管理業者選定は、不正だと思わざるを得ません。私は絶対に不正は許してはならないと思います。政治の恩恵は、一部の人がだけが受けるものではなく、広く皆さん一人一人に行き渡らなくてはならないと確信します。不正を許せば一部の人がだけが政治を動かし、利益を得るものとなってしまいます。

私は川南町の将来のためにも、第三者委員会を立ち上げて、この指定管理問題について真相を

究明してもらいたいと強く願います。

最後に、私は言いたいと思います。いいことをしないのは、悪いことをするのと同じだ、そういう言葉があります。納得できないことには異議を申し立てます。悪いことは悪いと言い切っていきます。沈黙は金ではありません。沈黙すれば不正がまかり通るようになります。私はしつこく言い続けます。

以上で、私の質問を終わります。

(午前11時03分 終了)